

診察室こぼれ話

前立腺という臓器について書きます。前立腺といってもどこにあるのか簡単には思いつかないのではないのでしょうか。前立腺は膀胱のすぐ下にあるクルミぐらいの大きさ(成人で約20グラム)の臓器で、精囊(せいのおう)と一緒に精液をつくる役目を果たしています。そして、この真ん中を通っているのが尿道です。また前立腺は膀胱の出口の開け閉めにかかわり、排尿のコントロールにも関係しています。一般的に男性は年をとってくると、若い頃に比べて尿が出にくくなります。その原因の中で多いのが、前立腺肥大症です。前立腺が大きくなると、内側の尿道を圧迫したり、前立腺の筋肉が過剰に収縮して尿道が圧迫されるために、尿が出にくくなるなどの排尿障害があらわれるようになります。

そのすべての人が治療を必要とする症状があるわけではありません。治療が必要な割合は4分の1程度とされています。前立腺が肥大する原因は完全に解明されていませんが、男性ホルモンの働きが関与していることはわかっています。

症状は、尿の出が悪いなどの排尿症状、前立腺が大きくなり膀胱を圧迫し膀胱の容量が小さくなるので、トイレに何回も行く頻尿などの症状、また排尿後にすっきりしない残尿感が見られたりします。

前立腺肥大症による排尿障害を長い間放っておくと、肥大が進み、膀胱に残る尿の量が増え、感染や腎不全などの病気を引き起

こすことがあります。症状があらわれたら自己判断せずに、医師に相談しましょう。

前立腺肥大症と同じく、前立腺がんも年齢とともに増えてくる病気です。日本人の前立腺がんによる死亡数の増加率は、すべてのがんの中で、高い、増え方の激しいがんだと言えます。前立腺がんの症状は前立腺肥大症と同じような症状で、前立腺がん特有の症状はありません。診断は直腸診、エコー検査、血液検査でPSA(前立腺特異抗原)を測定します。PSAは、体の中にもともと存在する成分で、健康な状態でも前立腺でつくられています。しかし、前立腺がんがあるとPSAの血液中の量が急激に増えてくるので、前立腺がんの早期発見のために非常に重要な検査です。血液検査だけで測定できるので、前立腺がんの集団検診でも用いられ、がんの早期発見にも役立ちます。PSAが4ng/ml以下であればがんの可能性は低く、10.1ng/ml以上であればがんがあることが疑われます。高い場合は数百ng/mlという数値が出ることもあります。一度は検査されることをお勧めします。(さくまクリニック 泌尿器科から参照)

あれこれ情報版



昨年、インフルエンザ予防接種につきまして、ワクチン不足からみなさまにご迷惑をおかけいたしました。お詫び申し上げます。最終的には全国的に接種希望者全員が接種できるだけのワクチンが製造され、事態は収束いたしました。



インフルエンザが12月末から流行し始め、罹患者数は伸び続けています。A型、B型とも混在しています。



高熱がある、身体がだるい方は受付までお知らせください。別部屋でお待ちいただくことも可能です。



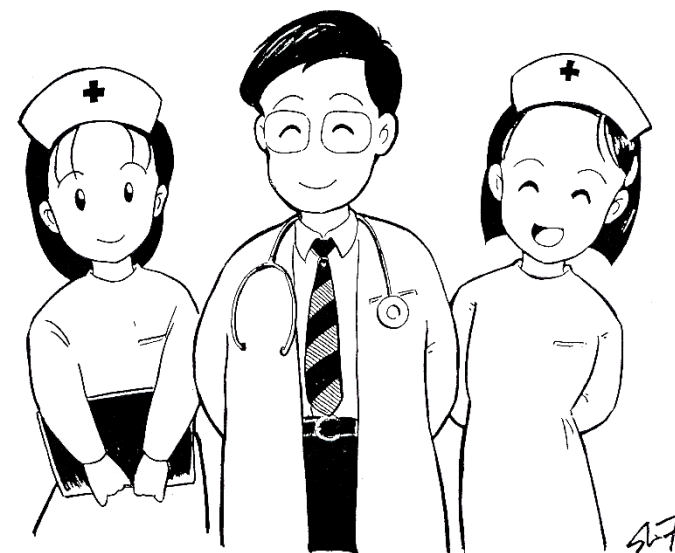
今年のお正月は少し寒かったですが、とても穏やかでした。今年もみなさまの健康を応援できる児島医院でありたいと願っております。よろしくお願いいたします。



我が家の黒柴は今年2月に18歳になります。若いうちは人になつくことがなく、番犬として家を守ってくれていました。近ごろ足の筋力が弱り、目が緑内障、歯が歯周病、腎機能が悪く腎臓食・・・とめっきり弱ってきました。人が横を通っても知らん顔。もう少し頑張ってもらいたいけど・・・。

すこやか通信

'18 1-2月号 Vol.122



児島医院

内科・循環器内科・小児科・皮膚科

神戸市東灘区深江北町 2-8-26

☎078-431-0696